

それは1981年のことだ。

宮本常一先生のご葬儀が行われた2月1日、アサ子夫人がこう仰った。

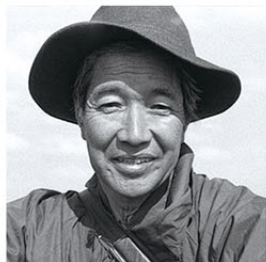
「入院中、宮本が『元気になったら、坂本君が『土佐源氏』をやって、自分が話をする、二人でそんな旅公演をしてみたいなあ…』と言っておりました。」
 同じ年の7月、松本幸四郎さんの市川染五郎として最後の舞台となったミュージカル『スウィニー・トッド』に出演するため、私は帝国劇場にいた。
 その楽屋に突然現れた水上勉先生は、私の手に一冊の台本を押し込んで、こう仰った。

「今日は、芝居を観にきたんやない。『越前竹人形』をおまえさんのために、独り語りに書いたんや。」

あの年から、33年経つ。84歳の私が、宮本先生の『土佐源氏』と、水上先生の『越前竹人形』を、こうしてまだやらせていただいている。まだ格闘している。さて「死ぬ前に、もう一本、映画に出たい」などと思っていると、それが叶った。坪川拓史監督の映画『ハーメルン』である。今回、この3作品を2日間にわたって皆さまにお届け出来ることとなった。嬉しくも苦しい格闘の日々が始まったが、こうして私は生かされている。

SAKAMOTO Nagatoshi 坂本長利

1929年10月14日、島根県出雲市生まれ。1951年、山本安英、岡倉士朗らが主宰する「ぶどうの会」に入団。1953年、木下順二作「風浪」で初舞台を踏み、さらに木下作「三年寝太郎」、宮本研作「明治の樞」などに出演した。1964年「ぶどうの会」解散後の翌年に竹内敏晴、和泉二郎らと演劇集団「変身」を結成。東京・代々木の「代々木小劇場」を本拠地に小劇場運動の先駆けとなるとともに、宮本研作「とべ、ここがサド島だ」「ザ・パイロット」、秋浜悟史作「冬眠まんざい」などの舞台に立った。1971年、「変身」解散後は映画・テレビなどにも多数出演。1967年の初演以来、独演劇「土佐源氏」(宮本常一聞き書きによる)を、出前芝居と称して日本各地をはじめ、ポーランド、スウェーデン、ドイツ、オランダ、ブラジル、ペルー、イギリス、韓国にて海外公演も多数行う。1996年1月、広島・因島公演で1000回を突破した。2012年3月の福島県昭和村公演で1150回となり、現在も公演回数を伸ばしている。2013年公開、坪川拓史監督・映画「ハーメルン」(共演は西島秀俊、倍賞千恵子ほか)に主演。1985年に紀伊国屋演劇賞特別賞、2000年に旅の文化賞を受賞。



『土佐源氏』をみせてもらって、君の表情が、ときどきではあるがあっと思わせるほどあの人に似ているところがあって驚いたし、懐かしく思ったりした。どんな人間も、自分自身に対して誠実に生きている者は、詩を持ち文学を持っている。どのようにささやかな人生でも、それぞれがみずからのいのちを精いっぱい生きるのにはやはりすばらしいことである。生きるということは何かいろいろの意味があるだろうが、一人一人にとってはその可能性の限界をためしてみるような生き方をするのではないかと思う。

—— 宮本常一 (民俗学者／聞き書きによる『土佐源氏』著)

写真：周防大島文化交流センター



坂本長利さんとは、私の『越前竹人形』の芝居で、船頭の役を演じてもらった縁で親しくなった。この役は名前もなく、どこに住んでいるのかもわからない人物で、全篇をひきしめる役どころ。作品の主題もかかって船頭役の深淺で観客にうたえる力が強まったり弱まったりする。坂本さんの演技は抜群といってよかった。大ぜいの評家もほめたし、演出の木村光一さんもほめていた。

この坂本さんには『土佐源氏』の評判の語り芸があって、かねてからレコードもきいてその独特な語りにもだが、この人がひきづっている農民的な根っこのようなものに魅かれてきた。それで、今度の『越前竹人形』の独り語りをたのんだ。私は坂本さんのために、この物語を書きあらためたのである。きつと、おもしろい時間が楽しめると思う。

—— 水上勉 (作家／『越前竹人形』著)

写真：水谷内健次



映画の中の校長先生は、(イチョウの化身)でなければならなかった。

そんな難役を、嘘偽りなく体現できる俳優は限られている。

そして、坂本長利さんと出会った。2011年秋、幾度もの延期を乗り越え、撮影が始まった。ようやくイチョウと対面した坂本さんは、その幹に触れながら『これは僕だね』と仰言った。

坂本さんは、間違いなくイチョウの化身だった。この映画全編に、坂本さんの気配が漂っている。登場していない場面にも。『ハーメルン』は、イチョウの化身である坂本さんで出来ていると言っても過言ではない。観かえすたびに、坂本長利という名優と出会えた幸せを、深くかみしめている。

—— 坪川拓史 (映画監督／『ハーメルン』監督・脚本)

写真：松木雄一

6月7日(土)

映画①『ハーメルン』 11時15分～13時30分
 語りと独演「越前竹人形」 15時00分～16時00分
 映画②『ハーメルン』 17時30分～19時45分

≫ 演劇 (全指定席)

3,600円 / (当日4,000円)

お得なセット鑑賞券があります!

演劇1公演+映画: 5100円 → 4500円

演劇2公演: 7200円 → 6000円 / 演劇2公演+映画: 8700円 → 7200円

■演劇チケット及びセット鑑賞券のお申し込みは響和堂へ…

URL: <http://kyowado.jp>

Fax: 03-3610-5740 / Tel: 080-4200-0808

e-mail: info@kyowado.jp

Faxでお申込みの場合は、お名前・ご住所・Fax番号・ご連絡先電話番号・チケット枚数を明記の上、ご送付ください。お申込み受付期間は6月3日(火)迄です。以降は電話にてお問合せください。未就学児のご来場はご連絡ください。

■映画チケットのみのお申し込みはチケットぴあへ…

チケットぴあ <http://pia.jp/t> / Pコード【552-949】

電話予約: 0570-02-9999

店頭販売: チケットぴあ店舗、セブンイレブン、サークルK・サンクス

6月8日(日)

映画③『ハーメルン』 11時15分～13時30分
 独演劇「土佐源氏」 15時00分～16時15分
 映画④『ハーメルン』 17時45分～20時00分

≫ 映画 (全自由席)

1,500円 / (当日1,800円)

○ JR中央総武線(東京メトロ東西線乗り入れ) 高円寺駅北口より徒歩5分

